

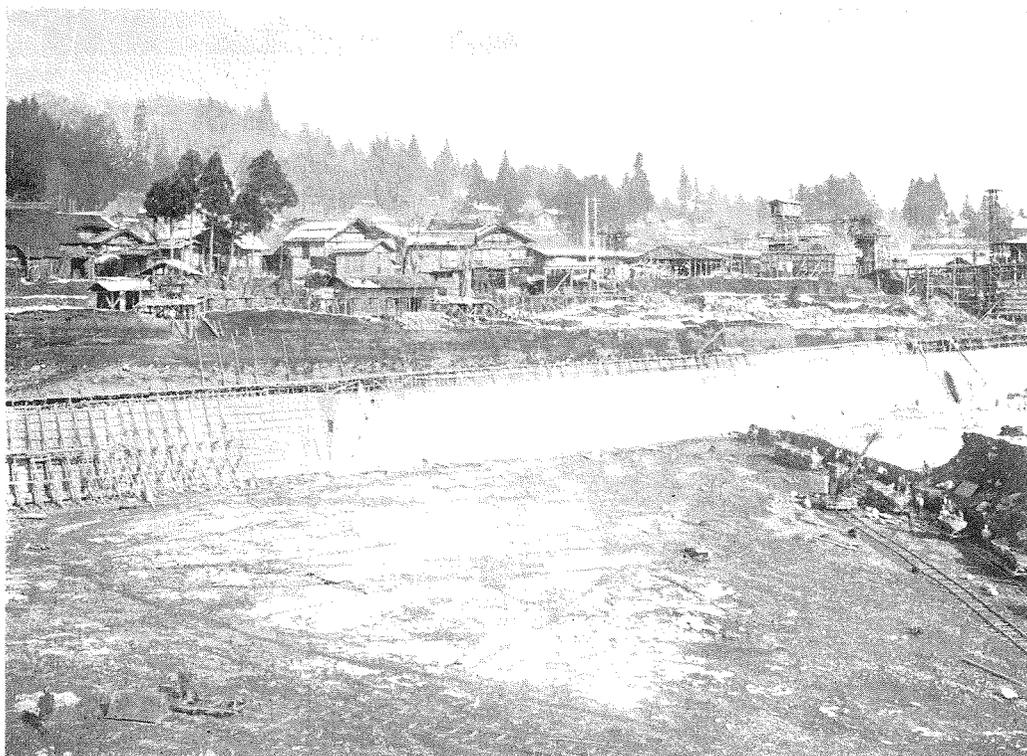
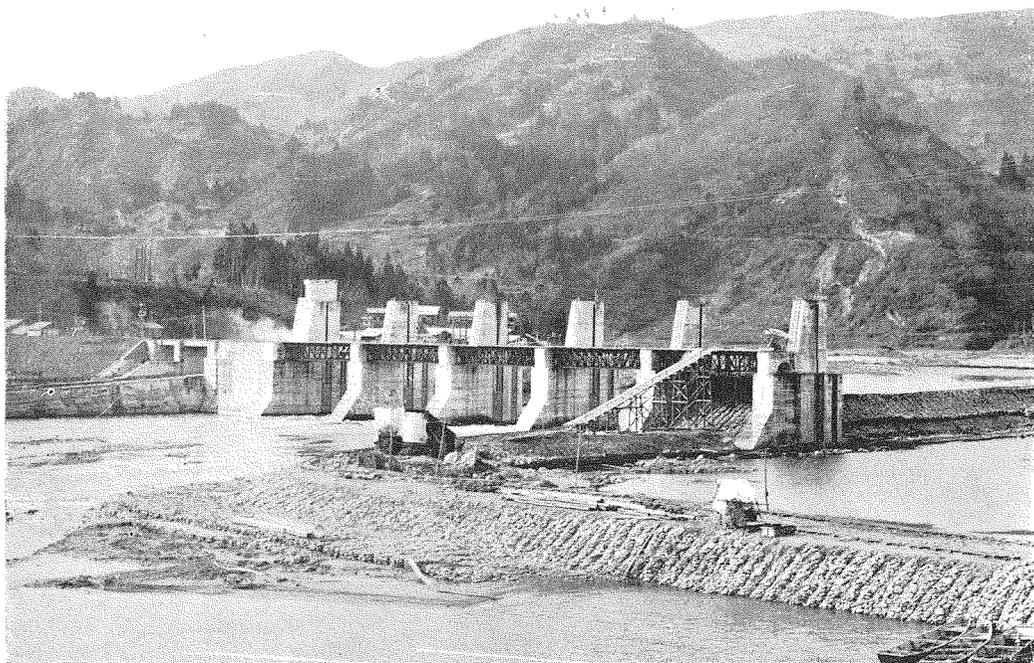
鐵道省信濃川 發電所工事現況

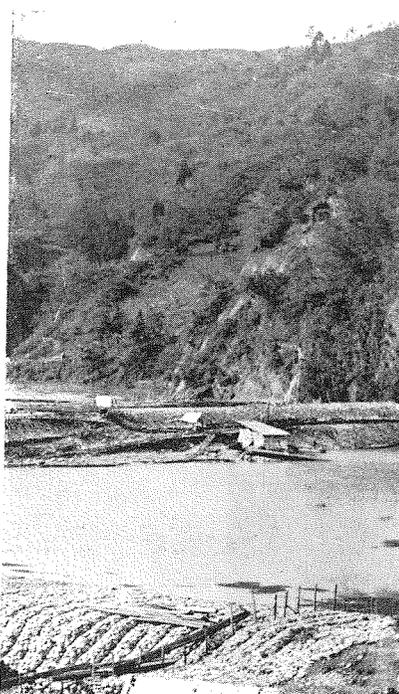
鐵道省信濃川電氣事務所長

釘 宮 磐

— 1 —

鐵道省信濃川水力千手
發電所工事現況・上流より
見たる取水堰堤工事場
右岸部竣功し左岸部假締
切工。(川崎式鐵網蛇籠)





— 2 —

左は取水堰堤右岸部成り之に河身を付替えて、在來本流々身たりし箇所左岸部残り的一半を着工せんとす。堰堤の總長約330米、内180米は溢流堰堤にして其高さ現在平水面と略等しく此上にストーンゲートを設けて其高さだけ水を堰上る。ストーンゲートは徑間15.17米、高7.58米のもの9門、徑間高さ共7.58米の排砂門2門を設く。溢流堤以外の部分は混凝土堤である。(施工栗原組)

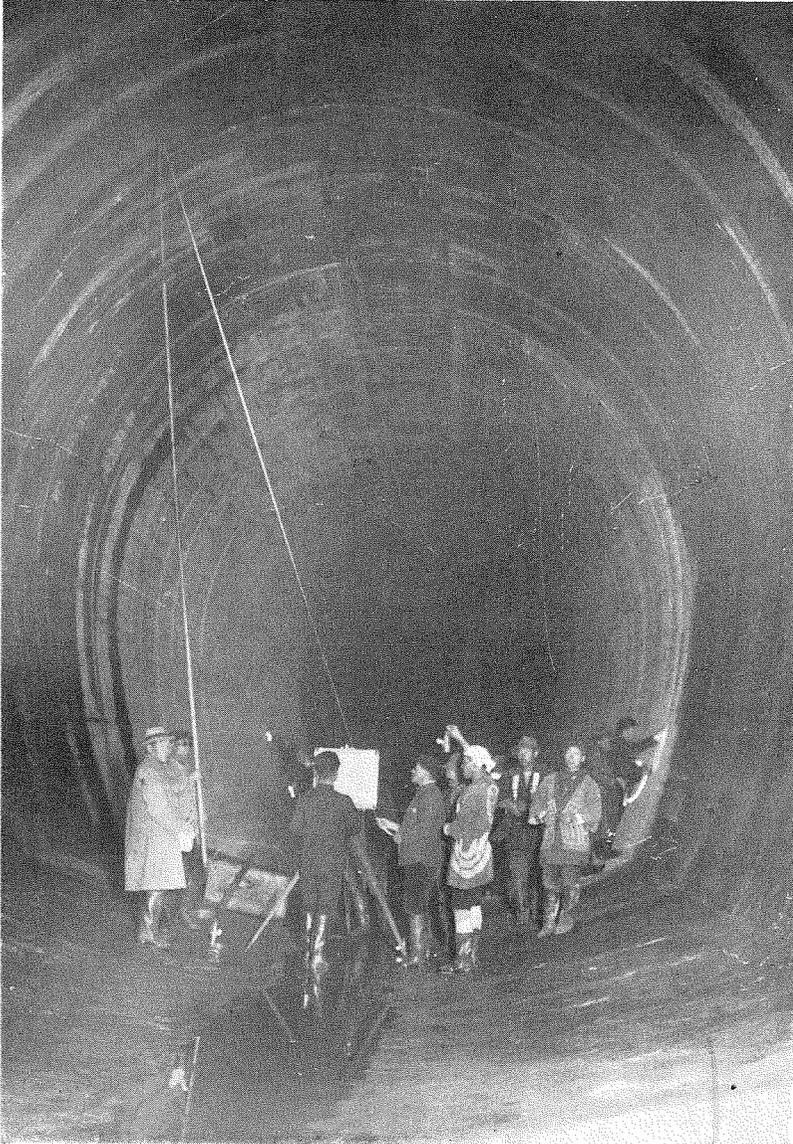
— 3 —

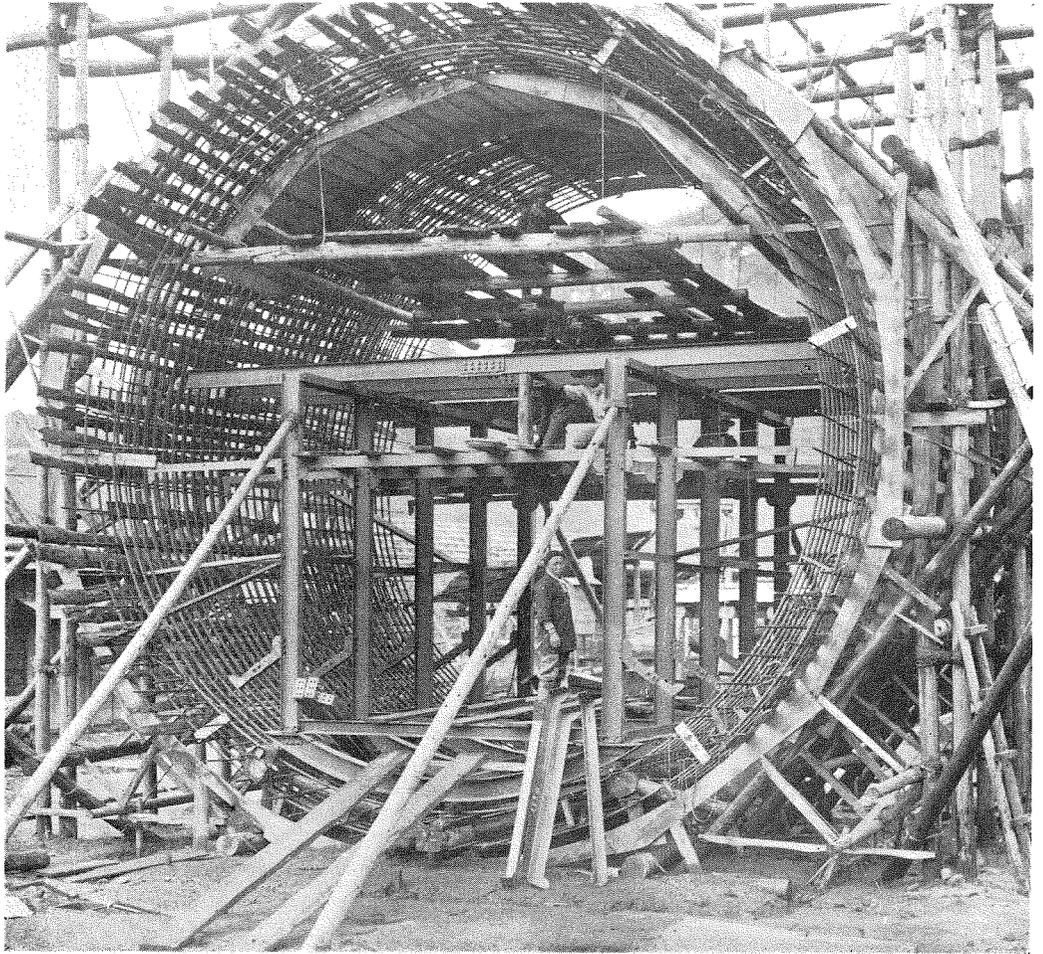
沈砂池工事揚を上流例より望む。沈砂池は堰堤直上の取水口に接続し、其長さ353米、幅121米で、縦に3分して任意の一池を斷水し排砂出来る様につくられる。



— 4 —

水路普通隧道竣工部分の断面側定。沈砂池を出た水は2條の水路に依つて淺河原に導かれる。水路は大部分寫眞の如き隧道で其延長7.6杆、断面は馬蹄型で、徑間高さ共6.82米、鐵道の複線隧道より稍々小さい。勾配は2000分の1である。





— 5 —

目下施工中の水路壓力隧道鐵筋及セントルの坑外に於ける假組立狀況を示す。馬蹄型水路隧道にて淺河原調整池（滿水面積132,000平方米、利用水深9.1米、有効貯水量90萬立方米）に導かれたる水は、此處より壓力隧道にて水槽に至る。壓力隧道は斷面圓形、直徑6.67米で取水口より淺河原に至る隧道より稍々小さい。勾配は3,000分の1で、水壓に耐ゆる様鐵筋コンクリートで捲立てる。（詳細は本誌昭和七年十一月を參照ありたし。係）